

平成30年度第5回江東区外部評価委員会

1 日 時 平成30年8月21日(火)
午前10時59分 開会 午前11時43分 閉会

2 場 所 江東区文化センター6階 第3会議室

3 出席者

(1) 委員

吉 武 博 通	塚 本 壽 雄
植 田 みどり	布 施 伸 枝

(2) 事務局

区長	山 崎 孝 明
副区長	海老澤 孝 史
政策経営部長	押 田 文 子
政策経営部参事(計画推進担当課長事務取扱)	高 垣 克 好
政策経営部企画課長	炭 谷 元 章
政策経営部財政課長	岩 瀬 亮 太

4 傍聴者数 0名

5 会議次第

1. 開会
2. 議題
 - (1) 平成30年度外部評価結果報告書(案)について
3. その他
4. 閉会

6 配付資料

- ・資料1 平成30年度外部評価結果報告書(案)について

午前10時59分 開会

○吉武委員長 それでは、定刻から1分前でございますけれども、区長もお見えになりましたので、これより第5回江東区外部評価委員会を開会したいと思います。

委員の皆様におかれましては、また暑さがぶり返してきた感じですが、ご多忙のところご出席いただきましたことを心から感謝申し上げます。今日は残念ながら、藤枝委員と宮澤委員からご欠席という連絡をいただいております。したがって、この4名で審議をさせていただければと思います。

初めに、お手元の資料の確認をお願いします。席上でございます会議次第に配付資料の記載がございます。不足がございましたら、事務局職員までお願いしたいと思います。今日の資料はこの1冊だけでございます。

それでは、平成30年度外部評価結果報告書（案）についてを議題とします。この案でございますけれども、第1回外部評価委員会で各委員にご了承いただきました「外部評価委員会の運営について」で、「正副委員長で評価案を作成の上、各委員に提出する」とされておりますことから、委員の皆様方からご提出いただきました外部評価シートに基づきまして、委員長の私と副委員長と調整の上、取りまとめたものです。

それでは、事務局からご説明いただければと思います。

○事務局 それでは資料1 報告書についてご説明させていただきます。

まず、表紙をおめくりいただきますと、「平成30年度外部評価について」ということで、委員長からいただいた文章を掲載してございます。この部分については副委員長にも確認いただいて作成いたしました。

中身について申し上げますと、3段落目から4段落目にかけて、「各部署が長期計画に掲げた施策を着実に推進するとともに、50万人都市江東区における多様な行政ニーズに日々向き合いながら、これらのニーズに応えるべく誠実に職務を遂行している様子を感じ取ることができた」とございます。

「一方で、取り組みの中には、基礎自治体としての区の役割や、目的・手段・成果の関係性に曖昧が見られるなど、今後に向けた課題も明らかになりました。また、次期長期計画の策定に向け、施策体系や成果指標のあり方、さらには行政評価の見直しについても課題提起された」とございます。

最後に、「外部評価の結果とそれに至る過程での議論を今後十分に活かし、これらの課題に的確に対応するとともに、次期長期計画の策定や行政評価制度のさらなる改善を進め

ていただくことを期待する」とまとめているいただいております。

次に、1ページからの外部評価委員会についてをご覧ください。2ページ以降には、外部評価委員会の概要についてまとめてございます。今年度につきましては、次期長期計画の策定を視野に入れまして3カ年の外部評価の総括を行うという視点で実施してまいりました。これまでと異なり、長期計画の大綱別に部長とのディスカッションを行った旨、記載してございます。

次に、5ページからでございますが、総評となっております。

1枚おめくりいただきまして、6ページをお開き願います。大きく大綱別評価の総括、次期長期計画での課題の2点にまとめていただいております。

まず、1の大綱別評価の総括でございます。委員によって評価の観点に違いはあるものの、「いずれの施策も計画立てに向けて真摯な取り組みが行われており、総じて良好であると評価することができる」との評価をいただいております。「その上で、各大綱における課題を挙げ、次期長期計画への展開も見据えながら、区政運営の更なる高度化に結びつけていただくことを期待する」としまして、以下、課題を挙げていただいております。

まず、大綱1「水と緑豊かな地球環境にやさしいまち」でございます。「この分野の施策は区の歴史的背景も踏まえた独自性が出ており、更なる目的の追求が求められる。また、国際社会全体で取り組むべき課題も含まれていることから、庁内連携はもとより、国や都、区民等との協働による取り組みが必要である」。

次に、大綱2「未来を担う子どもを育むまちで」でございます。「教育について、学校が抱える複雑化した課題に取り組める体制の構築と、学校の運営力の強化が必要である。施策の中には目的や成果が曖昧なものがあり、体系立てた施策立案が必要である」。

次に、大綱3「区民の力で築く元気に輝くまち」でございます。こちらでは中小企業、商店街振興策や少子化対策、コミュニティの活性化など、いずれの施策も「総花的で理念先行の印象も拭えない。何を目的として、区がどこまでの役割を果たすべきなのか、その考え方がわかりにくく、どれだけコストを投入し、如何なる効果が得られたのか不明確な部分がある」とのご指摘をいただきました。「このため、そもそも施策の意図が区民や関係団体と共有されているのか検証が必要であるほか、これらの施策を行うことによる区民のメリットについて、区民に説明し理解を得ることが重要である」とご指摘をいただいております。

次に、7ページでございます。大綱4「ともに支えあい、健康に生き生きと暮らせるま

ち」でございます。この後段の部分でございますけれども、「制度的に負担せざるを得ないもの、区独自の政策として進めるべきもの、区民の自主性・主体性に委ねるものを十分に整理・明確化する必要がある。また、制度やサービスの区民周知についてもアプローチの一層の強化が求められる」とのご指摘をいただきました。

次に、大綱5「住みよさを実感できる世界に誇れるまち」でございます。「防災分野では、いわゆる自助・共助の重要性についての更なる区民教育が求められるとともに、行政側には関係部署の連携や災害対応力の強化が求められる」とのご指摘をいただきました。

最後に、「計画の実現に向けて」でございます。区民協働につきましても、「理念としても重要な要素であるが、自助・共助に委ねるべきものと区が担うべきものを明確にした上で、その協働の在り方を検討していく必要がある」こと、さらに、人材育成について、「区政を担う職員は組織の内に閉じこもることなく、社会の大きな変化や様々な分野で生み出される新たな工夫に関心を持つとともに、現場に出てリアルな課題を肌で感じ、研鑽を積んでほしい」とのご指摘をいただいております。

次に、2の「次期長期計画への課題について」でございます。これまでの外部評価委員会では、現在の長期計画の施策体系や成果指標、行政評価のあり方まで様々な提言をいただいております。それらをまとめた形になってございます。

まず、「(1) 長期計画のつくりについて」でございますけれども、①施策体系では、「施策の名称が何を意味するのか、区民に分かりづらいものがある」。次の丸でございますが、「一つの大綱が複数の部にまたがっており、対応する組織が分断しているものがある」といったご指摘がございました。

8ページをお開き願います。②の「成果指標」でございます。まず、1つ目の丸ですが、「施策が目指す江東区の姿」の意図をしっかりと踏まえ、区民や区域についてその意図が実現されたと言える実態を的確かつ具体的に表し、施策の達成状況をより端的に示すアウトカム指標を設定する必要がある」。一方で、5つ目の丸でございますが、「区の取り組み努力をモニタリングするための指標と、アウトカムの指標の両方を用意できると、区民に対し、施策が目指す江東区の姿に向けての仕事がこのようにこれだけ進んでいるということが上手に説明できるかもしれない」とのご指摘をいただきました。

次に、「(2) 行政評価について」でございます。①の「評価シート」におきましても、「トータルコストの中に発生主義的な経費を計上することについて検討する必要がある」。「なぜこの取り組みを区が実施しなければならないのか、また区で実施する部分と、国、

都、民間で実施する部分を明確化する必要がある」と指摘をいただいております。

次に、「②外部評価制度」でございます。「区の担当者、区民、外部評価委員が対話を通じて評価を行う現在の手法は評価できる。外部評価モニターは区と区民とをつなぐコミュニケーションの新しいチャンネルとして大きな意義がある」との評価をいただいたところでございます。

次に、9ページをご覧ください。「(3)施策の展開について」でございます。①の「施策展開の構造化について」でございますが、「施策の目的や目的達成のための手段、成果、その補足方法などを体系立てて整備すること、いわゆる施策展開プロセスの「構造化」が重要である」とのご指摘をいただいております。

「②区の役割と協働」では、2つ目の丸でございますが、「限られた資源の中で、区民ニーズや社会情勢に対応するためにも、区がやるべきこと、区でないと出来ないことを明確にし、財政コストを検証しつつ、関係機関が役割分担等、責任を明確にしながら取り組んでいくことが不可欠である」としております。

次に、「③区民への説明責任と合意形成」では、「取り組みに対して区民の認知状況は必ずしも十分でないため、施策の目的・考え方・進行状況等を常に区民に分かりやすく伝える努力を継続することが必要である」。

④の「職員の育成」では、「何よりも「人づくり」が基本である。問題解決には職員一人一人の現場感覚が重要である」とのご指摘がございました。

10ページでございますが、「3 最後に」でございます。「外部評価については、外部評価モニターの声を反映しながら、主管部等と外部委員の間で、真摯かつ実質的なやりとりが展開されたことは、開かれた区政という点からも、また今後の計画・推進に活かすという点からも大きな意味があった。現行の長期計画から始まった外部評価はひとまず成功したと言える。次は「評価」を通じて浮き彫りになった課題を職員一人一人が考え抜き、長期計画及び行政評価を深化させ、施策の推進にあたっていただくことを期待する」とまとめていただいております。

以上が総評でございます。以降、大綱別の資料、その他資料関係となっております。

簡単な説明ですが、以上です。

○委員長 どうもありがとうございました。非常にコンパクトに要領よくまとめていただけたと思います。

先ほどの総評のところで大綱1から大綱5、あるいは「計画実現に向けて」のところ

やや厳しめの部分がありますけれども、これは最初のところで、6ページの上から5行目の1大綱別評価の総括で、総括的にはこの計画に対してきちんと評価をしていくという仕組みが、しかも数値化していくということについては定着してきており、これ自体はよくやっているということを書かせていただいております。したがって、大綱1から大綱5、「計画の実現に向けて」は、今後のためにこういったことを書かせていただいているということをごさいますて、全体としてネガティブなことではないということだけ申し上げたいと思います。

それでは、本案について何かご意見、ご質問ありますでしょうか。いかがでしょうか。事前にお目を通していただいたとは思いますが、この際、何かあれば。委員の先生方には最終的に再度コメントはいただきますが、この原案として何か修正すべきところがあればおっしゃっていただければと思います。いかがでしょうか。この内容についてはよろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、この案をもって、当委員会の報告書としたいと思います。なお、時期の整理等若干の微修正があるかと思いますが、その件につきましては、私、委員長と事務局にご一任いただければと思いますので、よろしくお願ひします。これで今年度の報告書にさせていただきますきたいと思います。

事務局から何かございますでしょうか。

○事務局 この報告書についてでございますけれども、今月下旬の庁内会議を経まして9月に区議会への配付、またホームページへの掲載をさせていただきたいと思っております。また、10月の区議会所管委員会におきましても、ご報告をする予定となっております。

私からは以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、今日の本来の議題であります平成30年度外部評価結果報告書(案)についての審議は、これで終了したいと思います。今日の議題はこれで全て終わりますが、最後に、平成27年度から実施してまいりました本委員会、今年を入れまして4年やらせていただいたわけでございますけれども、本日をもって終了となりますので、委員の先生方から一言ずつ頂戴いただければと思います。

○委員 最初のころは、外部評価ということで、外部評価モニターまで含めた評価手法が、

部長も含めてですが私たちも慣れておらず、あまりスムーズに進まなかった面がありましたが、年が進むごとに部長も考えてご説明されているようになり、私たちも外部評価モニターを交え、課題がうまく抽出できるようになったのではないかと感じております。

江東区は他の自治体とは多少状況が違っておりまして、人口が増え、財政的にはそんなに厳しい状態ではないという状況で、他の自治体でコメントするようなポイントとは若干違ってはいるのですが、現場の方々は自分の置かれている区の状況をいろいろ考えながら、仕事に取り組まれているということはよく伝わってきたかと思えます。

ただ、少々残念だったことは、ここの指標のところにも書かれているのですが、やったことがうまく指標につながってこないという指標設定になっておりますので、そのところはアウトカム指標と努力の成果がうまくリンクするような形に。独立行政法人でも同じような形でアウトカム指標を基本にはするのですが、努力指標、そこも自分たちはここを頑張ってきたということを評価して、今年度の評価はこうだったということを皆さんで話し合いをなされます。同じような形で、2段立てで、アウトカム指標も客観的な指標としては大切かと思えますが、現場の皆さんが頑張ってやってきたことを、こんなに成果は上がってきているんだということを感じられるような形にできれば、より可視化ということになると感じます。

以上です。ありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。

○委員 4年間とても貴重な経験をさせていただいて、私自身も勉強になりました。

先ほどもありましたけれども、毎年伺う中で回答がすごく変わってきて、よく評価のための評価になりがちだと思いますが、区政でこういうことをやっていくことを、ちゃんと外部評価モニターで入られている区民の方に伝えようという思いを担当の課長たちからも部長からも感じられるようになってきましたし、そのためにこの評価をどう使ったらいいいのかということを、政策経営部長を中心に担当者の方たちもすごく真摯に考えられているということを感じた4年間でした。

評価のための評価ではなく区政を良くしようということで、どう伝えていくのかという意味では、江東区は先導的な取り組みをされていらっしゃると思いますが、そのことに対してそれに甘んじるだけではなく、どうやったら良くなるかということ、最後の1年間皆さんがすごく考えられていると感じましたので、次の評価の最後には新しい計画とあわせてど

のようになるのかなということに期待を持たせていただいております。

そのような中で、幾つか最後に申し上げたいことがあるのですが、先ほど委員がおっしゃったように、皆さんがやっていらっしゃるものが、「こういうこともやっている」とか「こういうデータも持っている」というお話は出ますけれども、いざ資料として出てくるときにはそれがうまく伝わってこないことはもったいないと思いましたが、うまく区民の皆さんにも伝わっていないというのは残念なことだと思いました。

次期の計画では、皆さんがやっていらっしゃるものが、今は全体のプロセスの中ではここまで達成できていて、それはこういう根拠から言えるのですということ、全て端的に、区民の方にも私たちにもわかるような資料が文書として出てくると、建設的な議論に変わってくるのかと思いますので、ぜひそのような施策進行になると良いかと思っています。

もう一つ評価にかかわらせていただいて感じたのは、「施策が目指す江東区の姿」という文章と取り組まれている施策が、目指す姿のどの部分を達成するための施策なのかということが、いまいち見えてこなくて、施策ありきな部分で、施策を自分たちはこうやっていますというところはすごく伝わってきたのですが、それが目指す姿のどの部分を達成するための施策なのかということが、具体的に伝わってこなかったところがありました。

そこをうまく表現できるかわかりませんが、パズルのような形の全体像があって、その全体像を目指す姿が1枚の絵のような形になって、その一つ一つのパズルのピースが施策となっていて、今はこのことが当てはまって、ピースの一つ一つの辺が関連する施策だと思っていますので、視覚的に連携という形を、施策の全体観、目指す姿の全体、今この部分がこの施策で達成できて、この部分はできました、でもまだこの部分はこういう理由でできていませんという形で見えてくると、外部評価モニターの方たちも具体的なイメージがわかるので、そのような資料が何かできてくると、出てくる意見が違ってくるのかと思いますので、資料の提供の仕方というのを工夫されてはいかがかと思います。

もう一つが、先ほど財政的に豊かであるということがありましたけれども、だからこそ、なぜ区が、区の税金を使ってやらなければいけないのかという部分をよりきちんと明確にする必要があるのかと思います。国もやっているし、都もやっているし、NPOの中でも委託していたりと、さまざまな行政の活動傾向があると思いますが、その部分でなぜ区が区の税金を使ってこれだけの事業をしなければいけないのか、国がやっていることと何が違うのか、区にとってどのようなメリットがあるのか、ということと同時に、区民にとってどのような利益が返ってくるのか、という部分での説明があると、「区は区民のことを

考えてこのような施策を国とは違ってやってくれているんだ」とか、「自分たちが出した税金はちゃんと自分たちに返ってくる、そして使われているんだ」と、外部評価モニターの方たちも、区はきちんとやってくれているということがわかると思うので、なぜ区が税金を使ってこの事業をやるのかということがわかるような形でご説明いただくといいのかと思っています。

最後に、今回、最後のところで感じたのは、会議のときにも申し上げましたけれども、今までやっている事業が当たり前とか、今までやってきたことの前提に立って議論されているので、新しいビジョンのところでは社会も変わりますし、産業構造も変わってくる中で、既成概念を大前提とするのではなくて、やはりその他の事業とか、それを予測するのはなかなか難しいとは思いますが、なぜそれをやるのか、新しい社会についてどういう社会が予想されて、その中で江東区はどういうふうな区政を行うのかとか、そのような中で区民のニーズとかを意識とかを調査していったときに何を提供しなければいけないのかという未来志向的な形での大前提の中で、施策を考えたり指標の設定をするということをしなないと、今までの5年や10年とは違う、より複雑な変化をこれからの5年、10年というのはすると思いますので、何かそのような意識の転換をしていかないと今回以上に指標が適合しない形になっていくような気がします。「新しいぶどう酒を入れるのは新しい革袋」ではないですが、やはりもう1回、大前提を疑うところから始めて、区としてどのような区政をするのか、そのときの施策は何が必要でそれをどう進行するかということ、難しい宿題を出していると思いますが、ぜひそのような仕組みで新しい取り組みをしていただければと思っています。

○委員 4年間、大変やりがいのある仕事をやらせていただいて感謝申し上げます。

この長期計画ですけれども、私は「水彩都市」という打ち出しから始まりまして、区民の皆さんと共有のしやすい、なかなかよくできた長期計画で、何をみんなで共有して、地域をどう持っていくのかというメッセージが非常にクリアに出ていると思います。そのような立派な長期計画の進行についての評価にかかわらせていただいたことを、まず私も大変ありがたく思っております。

同時に、4年間やらせていただいたということで、次の長期計画、あるいは次の長期計画の進行管理の面での評価のあり方みたいなことについても、限られた範囲でありますけれども、若干の知見を述べて、また本日、この報告書にも反映していただいているということで、その点についても大変感謝をしているところです。

次期長期計画でもおそらくこうした評価の試みは行っていかれると思いますが、評価を行うことに部局の皆さんが余計な精力を割かれることのないように、まさに私たちはこういう努力をしているということを指標で、先ほどのお話にもありましたようなものも加えて、妙に考えることのない形でこうした評価の場で議論ができますと尚よろしいかと思えます。その意味で指標のあり方、あるいは全体の大綱との関係のつき合い方については、各委員からご議論がありますけれども、ぜひ工夫をしていただけると良いかと思えます。

同時に、外部評価モニターの試みも、私も班長をやりながら若干戸惑いもありましたけれども、これ自体は職員の皆さんにとっても刺激になったのではないかと思います。次回はどうかかわりませんが、工夫を加えられることによって、日ごろそれぞれ基礎自治体として窓口で、あるいは実際の地域の調整でお会いになる方々と多分違う考えあるいは違うことをお感じになることもあると思いますので、この総評にもありますけれども、そのような試みについても私はよいことだったと思っていますところです。

今回、最後の報告書ができましたけれども、一つお願いしたいのは、部局ではこれを飾っておくのではなくて、30年度の評価委員会による評価について、どうぞ忌憚なく、マル、バツをつけて、そういうことを4年間一緒に討議いただいたということ、しかも私などは基礎自治体のことについて全く素人でしたので的外れなことを申したということで反省もしておりますが、そのようなことを踏まえてぜひマル、バツをつけてもらう、「これをやろう」と、「これはちょっと後だね」と、そういうことをやっていただくと、それも一つの助けになるかなと思います。

個人的には、今申し上げたように基礎自治体の運営ということについて全く素人でしたので、そうした中で皆さんがどのように奮闘なさっているかということを知ることができました。そのことについて外部評価モニターの皆さんのお話を聞きながら、「なるほど、やはり区というのも大変なのだな」ということを感じさせていただき、個人的にも大変勉強になりました。私のこれからの人生にこの経験を生かせればありがたいなと思っています。感謝を申し上げて、感想を述べさせていただきます。ありがとうございました。

○委員長　最後に私から、コメントはここに書いておりますので、一言で言うと今回の外部評価は大成功だったのではないかと私は思います。色々な問題点を指摘しているということ自体がとても意味のあることですし、それから外部評価モニターですね、副委員長と私とでそれぞれ班長になって二手に分かれ、副委員長もご苦労されたと思いますし、私も苦労しましたけれども、モニターの方から拍手が出たのですね。何度もありました。評価

をして終わった後、「では、これで終わります」と言ったら、拍手が出てくるのです。それは私たち外部評価委員に対する拍手というよりは、おそらく区の職員の人たちに対する拍手だったのではないかと私は今思っています、必ず評価のときには最初に私たちのところに向かって皆さん挨拶されるので、私たちよりも区民の方に向かって挨拶してください、向こうに向かって何とか課長の何とかですって言ってくださいということを伝えたのです。つまり区民の方に、区の職員の人たちが、課長であっても、係長であってもこんなに一生懸命、自分たちのことを考えてやってくれているのかというのが、外部評価モニターは50万区民からすればごく一部ですけども、おそらくそれが伝わったこともすごく意味があったと思いますし、それからこういう成果物ができたことも意味がありましたし、我々6人がかなり厳しいことを強く言うことに対して、口をとがらせて反論する方もおられましたけれども、それらも含めて部長をはじめとする区の職員、あの場に出た方々にとってはすごいトレーニングの場だったと思いますし、それがまた私たち6人の委員にとっても、各委員からも話があったように、我々自身もそれによって成長させていただいたとか、貴重な経験をさせていただいた。評価というのは、誰かが上から目線で通信簿をつけるというよりは、そういうコミュニケーション、対話とか切磋琢磨の中でお互いに色々なことを気づいていくことがとても大事だろうと思うのです。その限りにおいて、今回は大成功だった。それから、計画をきちっとつくって、それをそのままにせずに評価していく。数値については相当我々も厳しく発言があったというのはそのとおりだと思います。けれども、曲がりなりにもそういうKPIを定めて、それをちゃんと実現していこうという試みをやったからこそ、「この数値ではまずいよね」という議論が生まれたわけでありまして、そういう意味では江東区のこれからの区政にとって大きな成果がある4年間だったのではないかと思います。

ほかの委員もそうだと思いますが、私も個人的には今、色々な評価にかかわらせていただいています。特に大学の評価が多いのですが、正直に言って、ここには行きたくないなと思う大学もあるのです。評価をすることが、あくまでも自己目的で。だけど、江東区の外部評価は、八王子の南大沢から遥々やってくる価値があるだけの、やっぱり楽しかったですね、非常にやりがいのある評価だったと思います。それは、政策経営部の皆さんがより献身的だったし、的確に我々をサポートしていただいたということだと思いますし、各主管部の部長や課長たちが真摯に答えていただけたので、楽しく仕事ができたとことです。これは江東区にとって非常に大事なことで、私たちが楽しく仕事ができるというこ

とは、区の職員の人たちも皆前を向いて一生懸命仕事をされているということでありますから、我々も非常に気持ちよく仕事ができたと。だから、この中に真摯とか誠実という言葉が入っていると思いますが、真摯に区民のニーズに向き合って、そして誠実に仕事をこなしておられるというのは本当に誇りにもなってよろしいのではないかと。これは山崎区長がそういう区役所の雰囲気をつくっておられるのではないかと。区長のリーダーシップに心から敬意を表したいと思います。本当に貴重な機会を与えていただいたことを感謝申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、今日は区長にご出席いただいておりますから、区長からもご意見、ご感想などをいただければと思います。

○山崎区長 区長の山崎でございますが、4年間にわたりまして6人の先生方には大変なご努力をいただきました。本当にありがとうございました。

平成27年度に後期長期計画をつくりまして、プライベートな話にもなりますが、私は区議会議員、都議会議員を長くやってきまして、行政については全く外部の批判者、行政の素人と言っていいと思いますが、議員という立場からは役所の仕事を見て批判をしたり、協力したり、意見を述べたりしてきたわけですが、行政について全くの素人が区長になってしましまして、そこで2,800人からの職員を動かして、約50万人近い、当時は47、8万人でしたが、その区民の皆さんのことをしっかりと見ながら、喜んでもらえるようなまちづくり、区政を運営していくことは非常に難しいことだなということを感じておりました。

そこで何を考えたかということ、簡単に言うと、家庭教師をいっぱい雇いたいなど。私のわからないところを補佐する家庭教師的な、私を色々と教えてくださるような方々が必要だなと思いました。

例えば、一つには包括外部監査、監査委員は区の行政の中にもおりますけれども、外部の公認会計士の会からご選出いただいております、そういった当区と全くかわりのない方々に行政を覗みつけてもらう、監査してもらうということが大事だということも一つ。今回の外部評価委員会もそうでして、そのような専門の方々、また違った立場の方々からいろいろなお意見を賜ることが、私にとっては職員と一緒に仕事をやっていく上で大事なことだろうと思ひまして、こうした委員会を設置させていただきました。

無論、外部評価モニターにも参加していただいて、そこでの意見を取りまとめて色々な区民のお考えを吸い取っていただき、それをこの外部評価に反映させていただいたという点で、先生方に感想を述べていただき、大変ありがたいお言葉を賜りまして、今、本当に

やってよかったなとつくづく感じたところでございます。

今後、新たな長期計画もつくりますが、そこに先生方からは様々なご指摘をいただきました。総括の部分ではお褒めをいただいておりますけれども、大綱の各部分を見ますと、再検証が必要だとか、色々と厳しいご指摘をいただいております、まことにそのとおりだなと思います。

つい先日も、教育委員会が報告書を出すという会議がありました。その中で、一つ例にとりますと、不登校児童出現率というのがありまして、毎年小中学校ですと数字を出しております。ある日、私が指導室の職員から聞いたのですが、不登校になってしまった子供たちをどうやって学校に戻すか、どうやって復帰をさせるかということが一番大事なんだろうということを言っておきましたが、後に私のところに入った情報では、不登校になった子供たちのうち二十数人が普通受験をして、高校に入学した、受験合格したと。ところが、そういう数字が表れてこない。それで私は非常に怒ったのですけれども、なぜこれだけみんなが努力をして、そして子供たちが頑張っ、保護者も頑張っ、高校受験に合格したのに、その人数をなぜ表していかないのかと、ただ年度別で増えた減ったと不登校出現率だけを並べても何の意味もないではないかと怒ったのですが、そのように努力した結果がきちんと表れているわけです。そういったことを区民の皆さんに知らせることによって、現在、まだ不登校で悩んでいらっしゃる保護者の方々、あるいは本人たちが、「こんなに江東区でもやってくれているんだ」、「僕も頑張れば高校に入れるな」というような希望を持たせる、保護者にもそういった希望を持たせる、そういうことが行政にとって一番大事なんだということを、つい先週、私は厳しく教育委員会で指摘をしたところでございます。

先生方のご指摘にもそのようなことが書かれてございまして、私と全く同じだなというように感じたところでございます。先生方とは、直接、こうしてお話する機会は少なかったわけですが、本当の意味での区の、または区長に対する家庭教師をしていただいたと思っております、先生方には心から感謝を申し上げる次第でございます。せっかくご指摘いただいた評価を、次の長期計画に活かしていかなければ申しわけが立たないというようにも思っておりますし、区の職員も大分緊張感を持って仕事をするようになったと私も感じております。

私が区長になるときに掲げたスローガンは、意欲とスピードと思いやり、この3つを私はいまだに区の基本姿勢、私の基本姿勢として掲げて仕事をやっておりますが、どうも意

欲がなく、与えられたことをやっていけばいいというような職員も多々見受けられた。それから、たらい回しとか、あちこちからぐるぐる回ってきてなかなか返事、回答が出てこないということも役所の悪い評価の一つですけれども、とにかくスピードが大事だということも言ってきました。

それから、思いやりというのは、区民の方々と納税者、その納税者のおかげで我々は生活をしているんだよと。だから、区民の方々が役所に来れば全てお客様と思いなさい。ですから、窓口でもいらっしゃいませという言葉がなぜ出ないんだということ、この頃はおはようございますとか、こんにちはという言葉がかなり出るようになってまいりましたけれども、私にしてみれば区としてのサービスという点ではまだまだ低いなと思っていて、いらっしゃいませとか、笑顔とか、そういったことを強く訴えて指導しているところでございます。

そのように意欲とスピードと思いやり、これをもって私も進めているわけですが、そうした意味では区の職員も非常に頑張ってくれるようになりました。おかげさまで色々なところで、私もあまり大きな声を出すことは滅多にないのですけれども、年に1回ぐらいあるかないかでございますが、みんながそれだけよくやってくださっているなと思っております。

今回、先生方のご指摘をいただきまして、本当にこれからも江東区はこうした良い条件というか、地方自治体として、先ほど先生がおっしゃったように、昔からの水と緑の環境、水彩都市という環境があるということのみならず、新しい住民がどんどん増えていくという点、ほかの区にない色々な資産があります。これを生かして、今後もっともっと良い区にしていかなければいけないというように強く感じました。先生方にご指摘いただいた今回の報告書をもとに、私のみならず区民、職員全員がしっかりとこれから心して行政を運営していきたいと思っております。

本当に長い間、ご努力いただいたことに心から感謝を申し上げて、ご挨拶いたします。本当にありがとうございました。

○委員長 区長、ありがとうございました。

それでは、本日予定されておりました議題は終了いたしました。本日は皆様のご協力で報告書をまとめることができました。本当にありがとうございました。また、委員の皆様には当委員会の運営にご協力いただきましたこと、重ねて感謝申し上げたいと思います。特に非常にチームワークのいい素敵なチームだったと私は感じております。どうもありが

とうございました。また、サポートいただきました部長をはじめとする政策経営部の皆様の献身的なサポートと適切なお助言に、心から感謝申し上げたいと思います。

それでは、以上をもちまして第5回外部評価委員会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

午前11時43分 閉会